

福山大学 工学部 情報工学科 平成30(2018)年度 自己点検・評価書

基準1. 使命・目的等

領域：使命・目的、教育目的

2018年度

工学部 情報工学科

中長期計画	情報工学科は「地域社会における情報工学の教育研究拠点として人材育成を図り、高度情報化社会に貢献すること」を学科の理念としており、幅広い教養と各専門分野における高度な工学専門知識・技術を習得し、広い視野と豊かな人間性を備えた実践的な技術者の養成を行うとともに、各専門分野における新しい技術を創造し、社会に貢献することを目的としている。
-------	--

2018年度

工学部 情報工学科

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等のそれぞれの使命・目的および教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	「情報工学科は、情報工学に関する知識と技能を身に付け、情報化社会で活躍できる人材を育成することを目的とする。」(大学ホームページの情報工学科)と記載しており、明確です。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	特色として、中国四国地方で最初にできた情報工学科(当初は情報処理工学科)であること、カリキュラムはJ07-CSに準拠すること、プログラミング道場を持つこと、などがあります。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	H28年度の工学部外部評価に基づき、学科の年度方針の検討を行っています。
年度目標	継続する。

年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成30年度第2回 情報工学科教室会議 議事録(4/11) ②2019年度第40回教室会議
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

工学部 情報工学科

中点検項目	1-2. 使命・目的および教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	毎年の自己点検報告書および自己点検計画書の作成を教室会議で決定することなどにより、得られています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成30年度第2回 情報工学科教室会議 議事録(4/11) ②2019年度第40回教室会議
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し周知していますか。
現状説明	使命・目的、教育目的については、大学ホームページで示しています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画へ反映していますか。
現状説明	学部の長期ビジョン検討委員会で反映しています。
年度目標	継続する。
年度報告	長期ビジョン委員会第6部会でSWOT分析が行われた。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①学科メーリングリスト 7/4-7/23
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 三つのポリシーへ反映していますか。
現状説明	反映しています。第三者評価で認証されています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①第三者評価報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	整合性がとれていることを第三者評価で認証されています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①第三者評価報告書
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

工学部 情報工学科

基準2. 学生

領域：学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応

2018年度

工学部 情報工学科

中長期計画	3年以内に入学者の充足率を1.0以上にする。 2018年度 49名 2019年度 50名 2020年度 50名 を目標としている。 学科の教育内容(資格試験重視、全学生の学力向上)、学科の研究内容の順で改善していく。
-------	---

2018年度

工学部 情報工学科

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	H28年度に改訂されたアドミッション・ポリシーを、学生便覧、大学ホームページ、学生オリエンテーションで周知しています。

年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧、大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	教室会議で問題がある学生の入試種別の調査を行い、その入試改善を行っています。具体的には、AO入試の利用学生の成績が良好でない場合があるので、H29年度からAO入試で英語の口頭試問で基礎学力の確認を行っています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	今後効果の検証を行っていく。
根拠資料	①教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	自己点検で毎年検証しています。学科内で偏差値の影響が大きいのではないか？との仮説を立てて、偏差値を上げるためには卒業生の質保証を行うことが必要であり、その対策として、資格試験取得支援を強化することを実行しています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成31年度入試、受験者数
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。出来ていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	H30年度及びH31年度入試では、定員を満たしています。今後も、学長室ブログを通じた継続的な広報、資格試験取得支援強化などを実施しています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	S

改善課題	
根拠資料	①平成31年度入試、受験者数
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

工学部 情報工学科

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	学修体制をより良くするため、教室会議で定期的に議論を行っている他、学科内FD の実施や大学FDへの参加などをおこなっています。授業評価アンケート結果に基づく学科FDの結果については、報告書を大学教育センターに提出しています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成30年度授業評価アンケート(情報工学科学科報告書) ②大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	プログラミング応用演習、プログラミング入門演習、アプリデザイン演習、情報工学演習Iの授業で活用しています。
年度目標	継続する。
年度報告	プログラミング入門演習、プログラミング応用演習、情報工学演習 I で活用した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①TA雇用契約書
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

工学部 情報工学科

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	大学のキャリア形成支援体制を活用しています。キャリア形成支援委員会を中心に、学科教員全員が支援しています。
年度目標	継続する。
年度報告	キャリア形成支援委員会が中心となって、インターンシップの案内、実施、運営に当たった。
達成度	A

改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊦ 卒業生の進路に関する過去3年間に亘る資料を収集し、検証していますか。
現状説明	教室会議、全学教授会などを通じ、資料を収集し、検証しています。
年度目標	継続する。
年度報告	2018年度 卒業者数 27人, 内定者数 24人, 進学者数3人
達成度	B
改善課題	学生への情報提供を行う。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	Cerezoのコースニュースを通じて企業からの情報を掲示するように整備する。
点検項目	㊦ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	資格取得者の単位認定、模擬試験実施、などを行い、資格取得を支援しています。インターンシップについては、キャリア形成支援委員や指導教員を中心に支援を行う体制を整備しています。
年度目標	継続する。
年度報告	ITパスポート:21名, 基本情報処理技術者:3名, 画像処理エンジニア検定(ベーシック):3名, CGエンジニア検定(ベーシック):4名
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①資格取得支援センター運営委員会報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊦ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取り組んでいますか。
現状説明	就職委員の学生相談、就職懇談会を通じて、質及び内定率の向上に取り組んでいます。
年度目標	継続する。
年度報告	Cerezoのコースニュースを通じて企業からの情報を掲示するように整備
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①Cerezo就職情報2019(情報工学科)
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	優秀な学生については福山大学奨学生の推薦を行っています。
年度目標	継続する。
年度報告	優秀学生2名を推薦したが採択されなかった。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取り組んでいますか。
現状説明	大学のハラスメントに関するFDを通じて防止に取り組んでいます。
年度目標	継続する。
年度報告	学科ではハラスメントに関するアンケートに積極的に取り組むよう周知した。学科でのハラスメントは報告されていない。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取り組みを行っていますか。
現状説明	プログラミング道場への学科の支援、学科海外研修の学内教育振興助成金への申請、福山市との協働事業の実施などを行っています。
年度目標	継続する。
年度報告	プログラミン道場には担当教員を配置し対応した、福山市との共同事業では商工会議所と共同しバラ祭りに参加した。海外研修の学内教育振興助成金への申請を行ったが採択されなかった。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	教室会議、工学部教授会で協議しながら運営・管理を行っています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学部教授会 ②教室会議議事録(第2回など)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	ICT教室(PC端末室)、実習・実験施設(実験工房)、図書館を活用しています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科のホームページ ②授業の手引き
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティスペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取り組んでいますか。
現状説明	教室会議、工学部教授会などで議論しています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録 ②工学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	定員数の学生の授業が行えるよう、施設・設備が確保されています。
年度目標	継続する。

年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録 ②工学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	法定点検が実施されています。安全衛生委員会のマニュアルに沿って防災・防火が行われています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①評議会議事録 ②全額教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	学科には劇物・危険物はありません。
年度目標	点検を継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学部・大学の危険物リスト
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	全学で実施されています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①全額教授会議事録 ②評議会議事録

次年度の課題 と改善の方策	
2018年度	工学部 情報工学科
中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	授業アンケートを実施し、その結果を教室会議、学科FDで検証し、改善を検討しています。
年度目標	継続する。
年度報告	現状説明の通り、実施しました。
達成度	A
改善課題	特にはありません。
根拠資料	① 学科会議議事録
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	担任制により、学生の状況を密に把握し、教室会議で相談する体制が整っています。保健管理センターの利用も行われています。
年度目標	継続する。
年度報告	現状説明の通り、実施しました。
達成度	A
改善課題	特にはありません。
根拠資料	① 学科会議議事録
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	アンケートを実施し、その結果を教室会議、学科FDで検証し、改善を検討しています。
年度目標	継続する。
年度報告	現状説明の通り、実施しました。
達成度	B
改善課題	学修環境にフォーカスしたアンケートを実施したほうが、より学生の意見・要望を把握しやすいと思われます。
根拠資料	① 学科会議議事録
次年度の課題 と改善の方策	パソコン室のリプレースの実現などの学修環境の整備を要求する。

基準3. 教育課程**領域：卒業認定、教育課程、学修成果**

中長期計画	<p>学科の独立専門教育プログラムとして、平成24年度入学生から「アプリデザイン教育プログラム」を応用分野として開始した。更に卒業研究での共通テーマとして、現在の先端情報分野の一つである「ヒューマンコンピュータインタラクション」を導入している。</p> <p>また、2014年度より、学科のカリキュラムは情報処理学会が提唱するJ07-CSに準拠するように変更した。更に、工学部共通の社会安全工学教育を導入した。1-2年以内にJ07の後継のJ17が策定される予定なので、それに関する情報を収集し、採用を検討する。学生全体の学力の向上を目指し、資格試験受験を活用したカリキュラムを実施する。</p>
--------------	---

中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	大学ホームページ、学生便覧、学生オリエンテーションにより、学内外に周知されています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①情報工学科HP http://www.fukuyama-u.ac.jp/information-eng/contents/ad-policy.html ②2018年度学生便覧 p.94
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ルーブリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	学科で議論し、大学教育センターで取りまとめられています。大学教育センターを通じて学内外に結果が広報されています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①情報工学科HP http://www.fukuyama-u.ac.jp/archives/036/201706/youken_H29.pdf ②2018年度学生便覧 p.99
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	大学の規定に基づき、認定基準を公表しています。学科会議、学部教授会で議論することにより、基準に合っていることを確認しています。

年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①情報工学科HP http://www.fukuyama-u.ac.jp/archives/036/201706/youken_H29.pdf ②2018年度学生便覧 p.99 ③平成30年度 第28回 第30回 情報工学科教室会議 議事録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

工学部 情報工学科

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	大学ホームページ、学生便覧、学生オリエンテーションにより、学内外に周知されています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	① http://www.fukuyama-u.ac.jp/information-eng/contents/ad-policy.html ②2018年度学生便覧 p.94
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	一貫性があるように策定されています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	① http://www.fukuyama-u.ac.jp/information-eng/contents/ad-policy.html ②2018年度学生便覧 p.94
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	毎年、シラバスチェックにより、カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成しています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A

改善課題	
根拠資料	①平成30年度 第23回 第25回 情報工学科教室会議 議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	大学教育センター中心に実施されています。学科でも教養ゼミ、専門英語等を実施している。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018年度学生便覧 p.99
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	実施しています。その状況については学長室ブログ等を通じて公表しています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	① https://www.fukuyama-u.com/blog/10855/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ ディプロマポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	ディプロマポリシーに基づいて、卒業研究のルーブリックを作成しています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成30年度第20回情報工学科教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

工学部 情報工学科

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメントポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	授業評価アンケート結果と単位取得状況を教室会議で把握し議論することにより検証しています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録 ②3/5 開催の授業評価アンケートに関するFD
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックはどのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	大学全体で授業評価アンケートが実施されており、その結果を使って学科内FDを実施し、授業改善を図っています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録 ②3/5 開催の授業評価アンケートに関するFD
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

工学部 情報工学科

基準4. 教員・職員

領域：教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援

2018年度

工学部 情報工学科

中長期計画	学科には8名以上の教員が必要で、そのうち4名以上が教授である必要がある。現在、教授4名、准教授4名(H30年度より)、助教1名の9名の教員が在籍している。将来的には教員数10名以上、教授数5名以上を目標とする。学科のカリキュラムの4つの分野(ソフトウェア、ハードウェア、ネットワーク、応用)の講義・演習を複数の教員が対応できる体制を構築する。
-------	---

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネージメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	全学教授会、工学部教授会、教室会議を通じて、当学部署の長のリーダーシップがいきわたるようになっています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学部教授会 ②学科の教室会議
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	実施しています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①H29年度教室会議議事録の委員決定
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。
現状説明	実施しています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①H29年度教室会議議事録の委員決定、工学部教授会
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	適切な年齢構成の教員を適切に配置し、自己点検、第三者評価で認証されています。性別については女性教員が全くいないため、女性教員の採用を大学に要求しています。
年度目標	女性教員の採用を要求する。
年度報告	採用できなかった。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	引き続採用計画を立てる。
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	確保しています。自己点検、第三者評価で認証されています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①評議会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。
現状説明	全学FD、工学部FD、学科内FDを実施しています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科FD報告書
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development;教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	大学主催のSDに積極的に参加し、工学部でも研究倫理教育、安全教育が適切に行われています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学部議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	教務事務についてはICTの活用が行われています。(ゼルコバ)。学科内では電子メールやoffice365を使った情報共有を行っています。
年度目標	より一層の利用を推進します。
年度報告	推進した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①Office365上の学科の議事録 ②ICT利用教育調査
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	研究に専念する時間は確保できていません。全教員、個室があります。
年度目標	研究時間の増加を目標とします。
年度報告	研究に専念する時間を確保できていない原因の一つが、会議の回数が多いことであるので、教室会議の開催頻度をおよそ1/2に減らし、議事録の確認手続きも会議終了直後の行うなどして、教員の労力を削減しました。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	大学全体で実施されている研究倫理教育に学科教員全員が参加し、テストを受けています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①評議会議事録 ②工学部議事録
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	外部資金依存が多く、外部資金がない教員は苦勞しています。
年度目標	科研費獲得に関するFDを実施するなど、外部資金獲得を増やす努力を行います。
年度報告	工学部内で科研費申請のピアレビューを行いました。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学部議事録
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか
現状説明	大学全体のマニュアルがあり、教員全員がそれに従って教育を受けています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学「研究関連ガイドブック」 ②コンプライアンス研修資料
次年度の課題 と改善の方策	

基準6. 内部質保証**領域：組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル**

中長期計画	法令と大学規則と学科3ポリシーに基づき、教育・研究体制を維持するだけでなく、強化を図る。このためには入学者数の増加・安定化が必要となる。入学者数の増加・安定化のためには、卒業生の社会的評価を上げる必要がある。卒業生の資格所有の割合は、社会的評価の高さの最も分かりやすい指標の一つである。資格試験合格が本学科の最終的な目標ではないが、資格を持つことは、総合的な専門知識を駆使する卒業研究を行う為の力にもなる。従って、学科の力を強化するための第一歩として、資格試験取得強化を行っている。
--------------	---

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	授業の単位修得、卒論の評価を、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに従って作成・運用を行っており、教室会議などで検証しています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学自己点検評価規定 ②福山大学工学部自己点検評価委員会細則 ③福山大学工学部外部評価委員会細則
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	大学の自己点検の年度計画、年度報告を学科内で議論して作成しており、共有しています。
年度目標	継続する。
年度報告	情報工学科教員が全員参集する「教室会議」を、2018年度は年に30回招集し、その中で、大学の自己点検の年次計画、年次報告を学科内で議論し作成しており、共有している。
達成度	A
改善課題	現行の教室会議による議論、Office 365 による情報共有は十分に議論している。自己点検・評価の効率化については、例えば、正規の勤務時間内に教室会議を終えるなど、過度な負担感が無いように、今後も、留意する。
根拠資料	①教室会議議事録 ②自己点検評価報告書
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	教室会議などで様々なデータを使った分析、その解析、結果を使った改善(授業改善など)を行っています。
年度目標	継続する。
年度報告	情報工学科教員が全員参集する「教室会議」では、データに基づいた議論のため、入学時に新入生アンケートを学科独自で実施している。あわせて、教室会議の議論では、ゼルコバに記録されている各種の教務データ等を丹念に確認する、各種学生アンケートの活用も行っている。
達成度	A
改善課題	2018年度からの新規の取り組みとして、全学生を対象として、自らの学習成果の振り返りレポートの作成、提出を全学生に対して行うこととした。2019年度は、これを継続し、学生の実情を理解の上で種々の運営等を行っていることを、今後も学生に対して示すことができる体制とする。
根拠資料	①教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

工学部 情報工学科

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	大学全体の自己点検を利用して、確立・検証を行っています。
年度目標	継続する。
年度報告	大学全体の自己点検を利用して、確立・検証を実施している。そうしたPDCAサイクルを機能させるために、「教室会議」で適宜、議論を行っている。学科運営の方針の策定と実施(PDCAのPとC)は学科会議でオープンに議論し、決定し、実施している。自己点検で明らかになった課題(PDCAのC)については、学科長のリーダーシップのもと、学科教員全員で取り組み(PDCAのA)、その結果を、教室会議で確認することとしている。
達成度	A
改善課題	2018年度からは、学科運営等のPDCAサイクルの仕組みにも資するために、教室会議の議事録を Office 365 と、キャビネット Karin の両方に蓄積することとしている。従来からの課題として、会議の効率化があるが、教室会議においては、学科長のリーダーシップによる審議、意思決定の場とし、報告事項については、オンラインに移行している。多くの教員は、審議、意思決定のための原案やデータを、学科長や学科教員に、教室会議の議論前に提供しており、教室会議の運営の効率化だけでなく、より適切なPDCAサイクルが実施できるようになりつつあり、今後も、オンラインの報告と、教室会議での審議、意思決定の並立を維持継続する。
根拠資料	①教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	研究関連のコンプライアンス教育を研究倫理教育として教員に実施しています。
年度目標	継続する。学科として必要なコンプライアンス体制を整備するために、学科と上位組織で整備すべき法令を整理・仕分する。

年度報告	研究関連のコンプライアンス教育については、コンプライアンス教育は、工学部長の指示のもと全教員が受講している。コンプライアンス上の諸課題も学科会議で議論している。例えば、学科会議が、定時の勤務時間外にわたって開催されることについては、学科会議で議論し「学科会議は、教員の自由研究ではなく、学科長の招集に教員が応じるもの」であることを再確認の上、定時外の開催は回避する方向が確認されたが、その後、上位組織より、時間外勤務についての考え方が示され、その方針に従うことにしている。
達成度	A
改善課題	コンプライアンスについては、特に、学生を研究活動に従事させる場合、学外との共同研究を行う場合など、個々の教員がコンプライアンス上の心配や不安を感じる場合には、学科長や、教室会議の場で打ち明けていただき、学科の意思として意思決定するとともに、個々のケースごとに、上位組織で整備すべき規則等も議論するようにしており、それを継続する。(例えば、ソフトウェアをうっかり違法利用することの防止については、学科レベルでなく、上位組織より適切なアナウンスを出していただくような経路を維持継続している。そのために、学科教員は、今まで通り、各種委員会等での活動を継続する)
根拠資料	①教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

工学部 情報工学科

基準7. 福山大学ブランディング戦略

領域：本学独自基準と点検・評価

2018年度

工学部 情報工学科

中長期計画	ブランディング戦略を本学科の教育・研究の活性化に利用する。学生教育の一貫として、学生と教員がブランディングに関する研究に積極的に参加し、そのことによる、学生の大学院進学率の向上、教員の研究力(論文数)の増加を図る。ブランディングに直接かかわらない研究についても、その研究をブランディング戦略に役立たせる方策を模索する。
-------	---

2018年度

工学部 情報工学科

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	教員へは教室会議を通じて周知を進めているとともに、福山大学ブランディング戦略に関するFDへの参加を促しています。
年度目標	継続する。学生へは、学科ホームページに福山大学ブランディング戦略へリンクを張って周知する。
年度報告	継続した。
達成度	B
改善課題	学部教授会や教室会議によって教員に十分周知はいきわたっているが、大学の公式ホームページの、学科のページから、福山大学ブランディング戦略へのリンクを貼れなかった。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	大学の公式ホームページの、学科のページから、福山大学ブランディング戦略へのリンクを貼ることも含めて、学科のページの更新を行う。

点検項目	② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との差別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取り組んでいますか。
現状説明	学科内の約半数の教員が、魚の養殖の改善技術に関する研究、里山の防災に関する研究等を通じてブランディング事業に関わっています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2019年度安全安心防災教育研究センター活動報告
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取り組んでいますか。
現状説明	ブランディング事業に関わる研究に、学生も取り込む努力を行っています。すでに一部は実施されています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。卒業研究のテーマの一部として、ブランディング戦略に関わるものがとりあげられています。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018年度情報工学科の卒業研究テーマ一覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目指しています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	学科内のブランディング事業に関わる研究テーマの中には地域の防災を区的としているものや、地域産業の柱の一つである魚の養殖技術に関するものが入っています。この研究を進めることが、地域貢献になり、その評価が検証になります。この他、工学部のひと・まち・くらしプロジェクトを通じて地域貢献を行っています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2019年度安全安心防災教育研究センター活動報告
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	学生がブランディング事業に関わることで、地域の中核となる幅広い職業人の育成に結び付いています。
年度目標	学生がブランディング事業にかかわるようにする。
年度報告	卒業研究などで学生がブランディング事業に関わった。
達成度	A
改善課題	検証がむずかしい
根拠資料	①2018年度卒業研究論文
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	学科内のブランディング事業に関わる研究テーマの中には地域の防災を区的としているものや、地域産業の柱の一つである魚の養殖技術に関するものが入っています。この研究を進めることが、地域貢献になり、その評価が検証になります。この他、工学部のひと・まち・くらしプロジェクトを通じて地域貢献を行っています。
年度目標	学生が卒業研究などでブランディング事業に関わるようにする。卒業研究発表会や指導教員の評価により、成果を検証する。
年度報告	学生が卒業研究などでブランディング事業に関わった。卒業研究発表会や指導教員の評価により、成果を検証した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018年度卒業論文
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	学生がブランディング事業に関わることで、地域の中核となる幅広い職業人の育成に結び付いています。
年度目標	ブランディング事業に関わり、地元企業に就職した学生が、地域に貢献する。
年度報告	ブランディング事業に関わり、地元企業に就職した学生がいる。このことが検証になる。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①就職状況
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取り組んでいますか。
現状説明	学科内の約半数の教員が、魚の養殖の改善技術に関する研究、里山の防災に関する研究等を通じてブランディング事業に関わっています。
年度目標	継続する。
年度報告	継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①ブランディングフォローシート
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	大学の学内研究費の申請の他、外部資金調達の努力を行う予定です。
年度目標	外部資金を獲得する。
年度報告	外部資金を獲得することができた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①安心安全防災教育センタープロジェクトフォローシート
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	ホームページや学会やメディアにおける研究成果発表を行う予定です。
年度目標	様々な発表を行う。
年度報告	様々な発表を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学部紀要
次年度の課題と改善の方策	